



# 月刊 千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番  
(公) 043 (222) 7897 番  
98.8.5 No. 4828

## 地本書記長を自ら決める 事も許されない組合とは？

### 東労組組合員に訴える

JR東労組の皆さんに訴えます。東労組の人事をめぐって、常識では考えられないことがまかり通りはじめました。

7月12日、13日に開催された東労組千葉地本大会では、本部の決定ひとつで、高崎地本所属の小林克也という人物が専従書記長に就任したのです。千葉とは縁もゆかりもない人間です。同じようなことが、水戸でも秋田でも行われています。水戸地本などは、何と三役中二名(委員長・副委員長ポスト)に他地本所属の人物が送り込まれ、秋田でも委員長ポストに他地本の人間が送り込まれています。あまりに異常です。

### 役員も自ら選べない組合とは？

JR東労組という組合は、自分たちの代表を自ら選出することもできない組織だということです。分会・支部・地方本部の役員等、自分たちの代表者を自ら選ぶことは、組合員の最も大切かつ基本的な権利です。しかし、JR東労組では、組合員の意見や要求は完全に無視され、全く別のところで一切が決められているのです。

組合の規約すら全く無視して、地方本部の大会が開かれる一カ月前に、組合員が全く知らない

ところで役員が決められてしまうようなやり方、それも千葉地本所属の者ならまだしも、見ず知らずの者が突然、専従書記長という組織の要に配置されるようなやり方をとる組織は、到底労働組合と呼ぶことなどできません。

しかも、多くの組合員が「一体どうなっているんだ」「冗談じゃない」と思いながら、組合が会社と手を結んでいるために、誰もそれに反対することができない。このような組織がJR東労組に他なりません。

### 遂にここまでできた革マル支配！

一体なぜこのような異常な人事が、強引に行われたのかというところが問題です。

それは、千葉・水戸・秋田という三地本は、革マル支配が弱いためです。革マルは、資本の奴隷となつて、国鉄分割・民営化のときの膨大な首切りや、今日まで続く差別・不当労働行為の手先になつて、労使ぐるみでJR東日本の異常な労務支配体制を生みだしました。会社に取り入って、その力だけを背景にしてなり立ってきた革マル支配下のJR東労組は、疑心暗鬼と猜疑心に取り憑かれた組織です。いつ資本から切り捨てられるの

か戦々兢兢とし、自らの組合員の動向にもつねに疑心暗鬼の目を向け、事実この十年間、全国で多くの中心的な役員が「組織破壊分子」とか「権力の手先」とかデタラメなレッテルを貼られて統制処分されています。

そしてついに、千葉・水戸・秋田など、革マル支配が弱い地方に対する直接支配にまで踏み切つたのです。つまり、組合員の意見や要求を無視するどころか、「革マル以外は信用がおけない」という目でしか、自らの組合員を見ていないということになります。組合員を信頼するどころか、監視する対象としか見ていないということであり、またこのような人事は、それまでの地方本部の役員に対して、「お前は無能だ」と言っているに等しいことです。こんな組合にこれ以上ついていくことはできません。

### 「国労破壊」へのかりたてが目的

さらに、今回の異常な人事には、組合員を無理やり「国労破壊」にかりたてようというという意図があります。JR東労組本部大会で、書記長・嶋田は、「今こそ国労組合員に国労指導部と心中するのか、決別するのか、一人一人に具体的に突き付けていくたたいが必要だ」と叫びたてました。「夏までに組織体制を整えて秋から勝負だ」というのです。

こんなことは、「国労を潰さ

なければそのうち自分たちが資本から切り捨てられてしまう」という革マルの利害に合うことではあつても、組合員の要求や意見とは全くかけ離れたことです。革マル以外に、国労潰しの手先になりたいなどと思つている東労組の組合員が、一体どこにいるのでしょうか。しかし黙つていけば、間違いない、その手先としてかりたてられることとなります。

### 今こそ、東労組と決別しよう！

われわれは、今こそ訴えます。東労組は、もはや労働組合ではありません。今こそ東労組から決別しよう。革マルの意志によつて書記長に送り込まれた小林克也を追放しよう。

労働組合は、何のためにあるのか。資本の不当な攻撃と闘い、労働者の権利や労働条件を守るためです。「一人は万人のために、万人は一人のために」が労働組合の原点をなすスローガンでした。会社と革マルのためにだけ存在、そのために平気で人を差別し、蹴落とすような組織は、断じて労働組合ではありません。

職場には、おかしいと思うことや不満が山積しています。JR東日本と東労組の手で進められる、限度を越えた大合理化・要員削減攻撃や安全無視の攻撃一〇四七名の不当解雇撤回闘争をとともに闘おう。